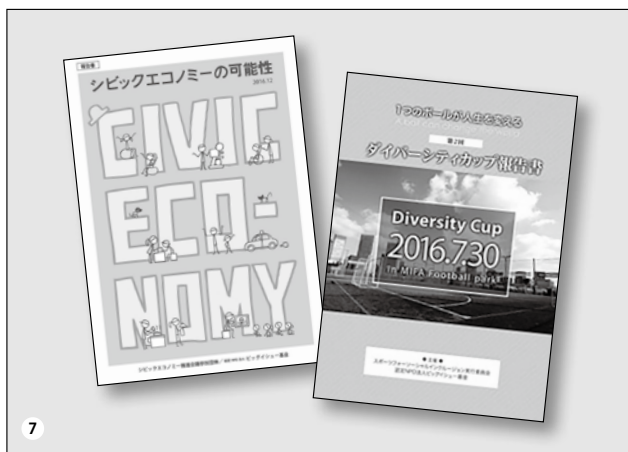




“個が肯定され包摂される”社会をつくる
認定NPO法人 ビッグイシュー基金
第10期 (2016年9月～2017年8月)
年次報告書



- ① 枝元理事との暑気払い料理の定例サロン ② 第3回ダイバーシティカップ (photo: 横関一浩) ③ ステップハウス「悟楽堂」利用者会議の様子 ④ 各地の『路上脱出ガイド』 ⑤ 第8回大阪ホームレスクリスマスパーティでのダンボールハウスづくり (photo: 中西真誠) ⑥ ソケリッサ! 農園ダンス ⑦ 『第2回ダイバーシティカップ報告書』、『シビックエコノミーの可能性』

目 次

03	はじめに —11 年目のプレイボールへ
04	第 10 期の活動概要 —「自助型の応援」に 93%の支持
06	つながって生きる —生活自立応援プログラム
06	・ 何があっても大丈夫 —当事者への情報や交流機会などの提供
08	・ 暮らしを取りもどす —健康・住宅・法律・金銭管理など相談活動
09	・ 仕事がしたい —仕事・就業応援プログラム
10	・ 生きていてよかった —スポーツ・文化活動プログラム
12	生きやすい社会をととのえる
	—ホームレス問題解決の実践的ネットワークと政策提案
12	・ 暮らしの基盤をつくる —住宅政策提案事業とステップハウスの実験的事業
14	・ 新しい仕事をつくる —若者をホームレスにしないために
14	・ 依存症からの脱却 —ギャンブル依存症問題の調査・提案事業
15	・ ダイバーシティカップ（スポーツによる社会的包摂の空間づくり）
	—社会性スポーツへの 13 年目
16	市民が社会をつくる —ボランティア活動と市民参加
16	・ 参加のチャンスをつくる —ボランティア参加プログラム
16	・ 市民応援会員、メニュー寄付、任意寄付、物品寄付 —寄付参加プログラム
18	・ 10 周年記念事業
19	ありがとうございました —市民・組織・団体・企業のご協力とご参加
20	決算報告
22	社会を変えるのはあなたの寄付です —会員・寄付制度について
23	誰にでも居場所と出番のある“包摂”社会をつくる
	—ビッグイシュー基金とは



基金は第10期目の活動を終えることができました。これも、ともに活動をして下さったあなたをはじめ、多くの市民のみなさんのおかげです。改めてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

「自助型の応援」を社会へ

この10年間、基金はホームレスの人へ仕事を提供する(有)ビッグイシュー日本と連携して「自助型の応援」をしてきました。

今期を含むここ数年、基金の現場から始まった活動は幅を広げ、社会にも影響を与えるような例が出ています。思いつくままに挙げますと、『路上脱出ガイド』は生活困窮者に視野をひろげた『生活SOSガイド』(大阪版)となり、10周年を記念して「第3回大阪ホームレス会議」でお披露目し議論をします。ホームレスワールドカップに端を発した「ダイバーシティカップ」では勝ち負け第一の「競技性スポーツ」に対し、人と人をつなぐスポーツによる多様な交流型社会空間をつくる「社会性スポーツ」として全国に広がろうとしています。これも10周年の記念事業として推進母体となる準備委員会ができ、基金から独立した展開を始めています。

政策提案事業ではギャンブル依存症問題の二つのレポートが国会の場で審議資料となり、政府の政策的不作為を示す根拠資料の一つとなりました。シビックエコノミー運動は有力NPOや社会的企業による推進会議を生みしました。住宅政策提案や調査では、ようやく住宅確保要配慮者(高齢者など)の入居を拒まない賃貸住宅として、空き家等を自治体に登録して家賃補助などを受けられるいわゆる「セーフティネット住宅」が制度化されました。

また、10周年にあたり、活動や寄付への参加をしていただいている皆さんにアンケート調査を通じて活動についてご意見をお聞きしたところ、「生活困窮者へも視野を広げる」と同時に、市民自身が仕事づくりを行う「シビックエコノミー」の運動については、これを進めていくよう8～9割の方のご賛同をいただきました。

歩こう！ 楽しもう！ 踊ろう！

これらを土台に、当事者が主役になれる活動

に一層力を入れたいと思っています。たとえば、難しいことですが、当事者が依存症であることを認め、自らギャンブル依存症者の当事者の会をつくっていくことなどです。政策提案の活動はこのためにこそ意味があると考えています。

この他にも、月に1回開かれるクラブ活動「歩こう会」は来年5月には100回目を迎えます。年1回の「大阪ホームレスクリスマスパーティ」は8回をこえ、今では冬の風物詩に。活動10周年を迎えるダンスチーム「ソケリッサ！」は彼らの原点である路上に戻って「東京近郊路上ダンスツアー」を始めています。これらは私たちの誇りです。

ホームレスの人の応援から始まった、このように多彩、多様で自由な活動ができますのは、あなたをはじめとする1,087人の登録ボランティア、延べ2,758人の市民応援会員や寄付参加者のみなさん、多くの団体や企業の方々のご協力、ご参加をいただけるからです。これからも基金は、ホームレス当事者を中心に、多くの市民が集う開かれた場として、語り合い議論し、社会に提案し貢献する、ワクワクと楽しい場であり続けたいと願っています。

そして極めて残念で申しわけないのは、10周年記念事業として提案した、オフィスの拡張をかねて市民的交流サロンをつくるのが、家賃の一部のご負担などを申し出ていただいているにもかかわらず、肝心の格安の物件が見つからず実現していないことです。引き続き努力しますので情報提供などよろしくお願いします。

どうか、この報告書を読まれ、基金の事業・活動に忌憚のないご意見を、そして、ご参加いただきますよう心からお願いします。

2017年11月15日

認定NPO法人ビッグイシュー基金理事長



Photo: 浅野カズヤ

佐野章二

第 10 期の活動概要——「自助型の応援」に 93%の支持

2007 年 9 月、ビッグイシュー基金は(有)ビッグイシュー日本を母体に、世界金融経済危機に揺れる社会の中で設立されました。ふりかえってみると、路上脱出ガイドを発行し、東日本大震災被災地への救援・復興参加などをした「立ち上げ期」(1 期 07 年～4 期 11 年)。「ホームレスの人々の自立応援」、「ホームレス問題解決のネットワークづくりと政策提案」、「ボランティア活動と市民の参加」の 3 つの柱を掲げた「展開期」(5 期 11 年～7 期 14 年)、そしてこの活動を深め広げる「到達期」(8 期 14 年～10 期 17 年)、第 10 期は「到達期」の最終年でした。

この間、ホームレスの人を含め貧困状態にある当事者自らが問題解決の担い手になれる「自助型の応援」という基本方向のもと、活動を続けてきました。

いま、路上生活者の数は 5,534 人(17 年)、10 年前の 18,564 人(07 年)から 7 割減少し(厚労省調査)、その平均年齢も 60 歳を越えています。一方で、路上の目視では見えない若者ホームレスの増加に加え、半年以上自宅に閉じこもっている 15～39 歳のひきこもりの人は 54 万 1 千人(内閣府「若者生活調査」)とも言われ、今後の若者層の“路上化”が懸念されます。

このような中で迎えた第 10 期は、これまでの活動への評価を受け、活動を見直す時期であり、将来の活動を考える時期でした。このため、まず、16 年 10 月、活動を支えてもらっている市民応援会員や寄付参加者の方への意向調査を行いました。その結果、「自助型の応援」には 93%、今後、「ホームレスの人を中心に生活困窮者にも応援を広げる」という考えには 82%の支持がありました。今後の課題として、新しい仕事づくりをめざす“シビックエコノミー”運動は後押しではなく前面に出て進めるべきという声が 84%となっています。

そして 10 期の基金の活動は、相談・活動の場、政策提案の場、ボランティアや寄付の市民参加など、活動が広がった 1 年ともなりました。

(ホームレスの人々の自立応援事業—情報提供、相談、仕事・就業、クラブ活動など)

生活や福祉の相談・活動では、幅広い 20 代～70 代の方々それぞれの「自立」とは何か？そのあり方と中身を考えながらサポートを行いました。その上で、これまでに築いたつながりを生かし、様々な団体、専門家、ボランティアと協力し、個々人の実情に合わせたサポートを模索しました。

まず、路上生活者への情報提供として、定例の昼回り、夜回り活動に加え、東京では 17 年 3 月から一般社団法人つくろい東京ファンドとの合同夜回り活動を開始。大阪では道端交流会やパーティなどを継続し、路上生活の方へ必要な情報や物品を届けました。『路上脱出ガイド』は、東京 23 区編を 2,000 部増刷、東京・大阪で計 3,625 部を配布。17 年 7 月からは、ホームレス化予防、生活再建の項目を充実した『路上脱出・生活 SOS ガイド』(大阪編)へと再編作業を進めました。月例サロンは「仕事・生活サロン」として仕事・就業を中心に、健康、料理など当事者による企画、運営を進めました。

生活自立応援では、幅広い年代から寄せられた、健康、法律、依存症などの各種相談に対応し、金銭管理や、福祉の制度への接続サポートもしました。認知症当事者のケースでは、自治体の地域包括支援センターや福祉事務所、成年後見人などと「地域ケア会議」を開きました。仕事・就業応援では、雑誌『ビッグイシュー日本版』販売者(114 人/16 年の月平均数)のサポートを会社と協力して取り組み、他団体等の就業相談にもつなぎました。スポーツ・文化活動では、サッカー、英会話、野球、歩こう会、卓球、音楽などのクラブ活動を行いました。ダンスチーム、「新人 H ソケリッサ!」は活動 10 周年を迎え、17 年 6 月よりチームの原点である「路上」に戻る「東京近郊路上ダンスツアー」を開始。資金集めにも 140 人の方の応援がありました。

(ホームレス問題解決の実践的ネットワークと政策提案—ギャンブル依存、住宅問題、シビックエコノミー、ダイバーシティカップ)

政策提案やネットワーク事業では、第9期からの継続事業を発展させる活動を行いました。ギャンブル依存症問題では専門家を中心とした研究チームが発足。そのレポートが完成し、前9期のレポートと合わせて広く社会で活用されました。例えば16年12月、カジノ法案審議中の参議院内閣委員会にて、『疑似カジノ化している日本—ギャンブル依存症はどういうかたちの社会問題か?』(A4版/32p.)、『ギャンブル依存症からの生還—回復者12人の記録』(A4版/88p.)が資料として配布され、国のギャンブル政策上の不作為を明らかにする議論の根拠資料の一つとして活用されました。レポートは1,188部を配布、17年6月、さらに政策提案を行うための研究会が作られ議論を進めています。

また、大阪で4期目を迎えたステップハウスの実験事業では、新たに兵庫県内に1室をオープン。東京・大阪合わせて、緊急用シェルター2室を含む8室を延べ86人が利用し、6人がアパートに移りました。

若者のホームレス化予防と新しい仕事づくりの観点から始まったシビックエコノミー事業では、16年8月に開いた「シビックエコノミー推進会議」の報告書『シビックエコノミーの可能性』(A4版/32p.)をまとめ、3,000部を発行、1,672部を配布しました。

17年3月に開催した若者応援団体と連携した「第3回ダイバーシティカップ」には、ホームレスの人、うつ病、ひきこもり、ギャンブル依存症当事者など200人以上が集まり、スポーツによる社会的包摂を目指す流れを推し進めました。そして7月には、今後の事業展開へ「ダイバーシティサッカーアソシエーション準備委員会」を立ち上げることができました。

(ボランティア活動と市民の参加—ボランティア、寄付、そして広報活動)

16年10月には、前でも述べた、基金の活動

についての応援参加者のアンケート調査を行い、402人の方から回答をいただきました。

ボランティアの参加希望者には毎月「説明会」を開催。ボランティア登録者は東京571人、大阪416人、札幌から熊本まで各地で約100人、合計1,087人でした。市民応援会員は376人、企業などの会員は2件。「出会い寄付」など5つの寄付メニュー参加者は666人、任意寄付参加者は1,192人、その他寄付者(チャリボン等)518人、遺贈寄付4人、市民応援会員を合わせた寄付参加者は延べ2,758人、会費&寄付額は4,219万円となりました。これに助成金などをあわせ収入規模は4,468万円となり、一方、支出規模は4,661万円、収支差額は△193万円となりました。法人税などや9期からの繰り越し金684万円を合わせると第11期へは477万円の繰り越しとなりました。

NPO法改正により新たな所轄庁が大阪府となり、府へ認定NPO法人の申請をし、2017年3月27日に認定されました。ひき続き基金への寄付は税制優遇され、税額控除を受けられます。また広報では、基金便りや基金通信「希望前線」を各24回発行しました。このほかホームページ、ビッグイシューオンライン、FacebookなどのソーシャルメディアやNPO向け無償提供広告Google AdWordsの運用を継続。マスメディアでも、ギャンブル依存症問題やダイバーシティカップの取り組みなどが取り上げられました。

(10周年記念事業について)

オフィスの拡張をかねて、当事者と市民、ボランティアが交流できる場の整備は、家賃の一部負担などのお申し出がある一方、未だ適切な提供物件が見当たらないため、残念ながら先送りとなっています。また、多様な交流型社会空間を全国につくり、勝ち負け第一の競技性のスポーツに対して人と人をつなぐ社会性スポーツを広げる「ダイバーシティカップ」、その推進母体となる準備会を立ち上げることができました。さらに、第11期の冒頭にまたがる17年中には記念のシンポジウムなどを準備しています。

ホームレス当事者や経験者の生活の自立をサポートするために、情報提供、健康や住宅、仕事などの相談、スポーツ・文化活動の応援を行いました。複雑で多様化する相談に対応するため外部との連携の幅を広げるとともに、定例の夜回りや炊き出し回りも続け、当事者の人々が参加し主体となって関われる機会を増やしました。

【何があっても大丈夫――当事者への情報や交流機会などの提供】

路上脱出ガイド

2008年1月に初めて発行した『路上脱出ガイド』は、改訂を重ね、今は路上を生き抜く上で必要な炊出しや緊急支援の情報、仕事をしたい時や生活保護の申請など路上脱出に役立つ情報に加え、路上に出ないための予防的な情報を掲載しています。2017年現在、札幌、東京、名古屋、京都、大阪、福岡、熊本の全国7地域で発行され、基金HPから各地のPDF版をダウンロードできます。東京・大阪以外のガイドは、各地域のボランティアが中心となって編集・発行作業を行っていただき、基金はその印刷費を負担しています。

初版発行以来、東京では65,461部（うち今期2,132部）、大阪では26,800部（同1,493部）を配布。路上での手渡しや公共図書館、お寺などの配布先が広がり、8月には東京版を2000部増刷しました。また7月から、大阪版の改訂作業を開始。ホームレス化予防、生活再建の項目を充実させた、『路上脱出・生活SOSガイド』として2017年10月1日に発行しました。インターネットを通じた閲覧も増え、HPに掲載した東京編のPDF版にはこの1年間で9,003件のアクセスがありました。



※各地のガイドは基金HPからPDF版を無料ダウンロードできます。

コラム

受刑者からの手紙

東京と大阪の各事務所には、毎月2、3通、受刑者の方から手紙が届きます。その数は5年間で延べ371通に上ります。

ほとんどの手紙には、出所後の生活に不安を感じていて刑期中に情報収集をしておきたい、という気持ちが書かれています。特に多いのは、出所後に知り合いのいる地元には帰れず新しい地で生活するしかない、そのための情報がほしい、という内容のもの。犯罪によって家族や周囲との関係が断絶していることが、彼らの社会復帰を難しくしている大きな要因になっているようです。

夜回り・道端交流会

大阪では（有）ビッグイシュー日本と合同で月4回の夜回りを継続しました。また東京では一般社団法人つくろい東京ファンドと月1回の合同夜回りを開始しました。当事者の交流と楽しみの場である大阪の「道端交流会」では、ビデオ上映会をメインに開催場所を市内中心部から西成地域にも広げています。夜間緊急シェルターを利用する人などにも呼びかけ、計14回、延べ193人が参加しました。

食料品の提供

大阪では個人の方や「フードバンク関西」から随時配達される食料品などを、東京では個人の方やUBSグループなどの企業から寄付された食料品を、それぞれ事務所や夜回りを通じて配りました。家はあるけれども、生活に困っている方からの問い合わせには、住いの近くで受けられる食糧支援についての情報提供を行い、緊急の場合には事務所まで取りに来てもらうよう案内するケースもありました。

定例サロン

ホームレス当事者が自発的に参加し交流する場である定例サロン。10期は「仕事・生活サロン」として、雑誌販売などの仕事を中心に生活にも踏み込んだ話し合いの場づくりをしました。「お客さんとのコミュニケーション術」、「季節に合わせた着こなしの楽しみ方」、「路上のストレス・マネジメント」「熱中症対策（お客さまにも配布）」など、時にゲスト講師を迎えてレクチャーを受け、話し合う時間を持ちました。東京・大阪合わせ延べ381人が参加しました。

クリスマス・越年の活動

第8回目となる大阪ホームレスクリスマスパーティでは、「ダンボールがつなぐ 路上・アート・いのち」と題し、市民101人、ホームレス当事者60人、スタッフ・ボランティア含め207人が参加。ビッグイシュー音楽クラブによるダンボール楽器演奏や、ダンボールコレクターで、財布などの作品を作る島津冬樹さんの講演を楽しみました。後半、ホームレス当事者のリードで、会場全体でのダンボールハウスづくりにも挑戦。色とりどり、14棟の新築ハウスが建ち並びました。

越年・越冬の活動では、池袋と新宿、大阪市西成区、岡山、鹿児島での越冬の活動に食材費の一部を提供しました。また、年末年始は役所が連休となり支援が手薄になるため、簡易宿泊所やネットカフェの宿泊費用の半額サポートを延べ16人に行いました。



大阪ホームレスクリスマスパーティ



東京：着こなしを楽しむサロン

【暮らしを取りもどす——健康・住宅・法律・金銭管理など相談活動】

いろいろな相談の場、定例の個別相談日を設け、相談者の希望によって弁護士や医師、カウンセラーなど、専門家につなぎ、当たりまえの暮らしを取りもどせるようサポートをしています。

健康・福祉相談

大阪では月1回、府保険医協会と歯科保健研究会の協力を得て、内科と歯科の相談会を開き、延べ102人が参加。服薬や継続加療が必要な人には無料・低額診療制度がある総合病院や、無料診察をしてくれる歯科につなぎ、17人が受診に至りました。

今期は元看護師のインターンの方の定期的な参加もあり、相談会への参加者が増えました。入院や手術が必要になる重篤なケースは4件あり、福祉制度や無料などの医療費減免の仕組みも活用し、生活の状況に合わせてサポートしました。

東京では8月にボランティアの医師、看護師、歯科医、歯科衛生士、社会福祉士など計12人の協力を得て、健康相談会を開催。計16人が参加し、体調管理や健康に関する相談の他、必要な方を医療機関につなぎました。また、福祉事務所や地域包括支援センターと連携して認知症当事者の継続サポートや、疾患のある当事者を訪問看護につなぐなどのサポート、症状が重篤な方には病院同行のサポート（延べ11人）などを行いました。



東京：健康相談会の様子



大阪：歯科相談会の様子

法律・住宅相談

法律相談として、路上生活者の現状に詳しい弁護士と連携して延べ6人の当事者の法律相談に対応し、裁判所への同行や、債務整理のための各種書類作成サポートを行いました。また抹消されてしまっていた戸籍の復活や、自己破産の手続き、前住居からの退去トラブルに関する相談、当事者の親族からの相続に関する相談にも対応しました。

住宅相談としては、入退居の際の手伝いや住民票移動、賃貸契約や入居費用支払い時の立ち合いなど、住まいを確保する上でのサポートを行いました。また、住居支援を行う団体との連携や、初期費用や保証人不要の低家賃住宅の情報収集に加え、ステップハウス（12p.参照）の運営を進め、延べ10人の利用がありました。



大阪：看護師インターンの日常検診



東京：事務所での個別相談

金銭管理

路上での現金保持の危険の回避、住所がないため銀行口座を持っていない人に向けて、希望者には自立に向けた積立金の預かりサポートをしました。具体的にはアパート入居の初期費用や、携帯電話の購入など生活再建に向けた経費の積立を目的に延べ42人の利用がありました。この他東京では、3人の当事者と月に1度の金銭管理チェックを行い、自力での金銭管理を応援しました。

【仕事がしたいー仕事・就業応援プログラム】

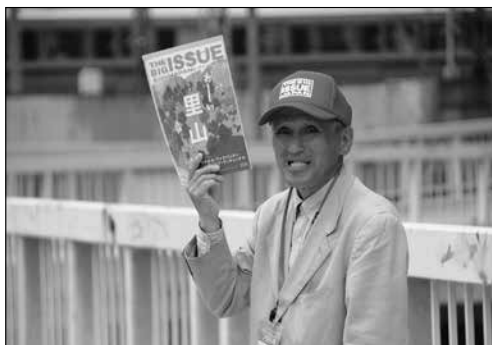
雑誌『ビッグイシュー日本版』販売者の応援事業

ホームレス状態の人がすぐに始められる仕事として、雑誌『ビッグイシュー日本版』の販売を提案し、必要な情報提供やサポートを行いました。大阪では夜回りや炊き出しの現場などで、販売に関する情報を掲載した「ビッグイシュー通信」を配布しました。

2017年8月現在、ビッグイシュー誌の販売者は、全国で113人となっています。販売場所への定期的な巡回・ヒアリングなどを通じて、仕事を行う上での悩みや喜びを定例サロンなどで共有すると同時に、必要に応じて健康や住宅等の相談事業につなげました。

定例サロンでは、熱中症対策講座を行うとともに、暑いなか路上に立つそれぞれの工夫を共有することを通じて、健康的に仕事をするための知恵を積み重ねる場を作りました。

NPO団体や学校現場などの協力を得て、ホームレス問題や雑誌販売の仕組みを説明したり、当事者である販売者が講師となって、ホームレス問題について語るイベントの企画・運営を行いました。その他、若者支援の全国集会などのイベントでの雑誌販売のサポートも行い、路上以外での雑誌販売の機会を作りました。



雑誌販売の様子



イベント販売の様子

就業応援の連携事業

不安定な生活や就業などの原因として、心の問題を抱える人にはソーシャルワーカーなどの専門家の参加を得て、コーチングやカウンセリングの場を提供しました。また、連携NPOが実施する清掃や自転車整理の仕事、職業訓練など就職情報の提供や、若者の就労支援を行う団体とも連携して、再就職への足がかりをつくりました。

その他、フットウェアメーカーの協力のもと、「シューズ販売体験会」開催など、多面的に仕事に関わる場と機会を作りました。

身だしなみから、「働く」を考える

大阪、東京事務所それぞれで寄付による衣料品や靴、衛生用品などで身だしなみを整えるとともに、定例サロンの場で、講師を招いてのカラーコーディネート講座や、市民が参加し当事者本人に合った爽やかな服装について考え披露する「ファッションショー体験」などを行いました。

また、2、3ヶ月に一度、プロの美容師ボランティアによるヘアカットの場を設け、身だしなみを整える機会を提供しました。



大阪：ヘアカットの様子

ビッグイシュー卒業生・就業者と継続して交流

住居や仕事を心得てビッグイシューを卒業した方などとも継続的なつながりを持つため、定例サロンやパーティ、サッカーなどのクラブ活動への参加を促しました。また、随時卒業後の状況確認のため仕事や生活についてのヒアリングも行いました。

【生きていてよかった—スポーツ・文化活動プログラム】

ビッグイシュー基金では「スポーツ・文化活動」を重視しています。一人ぼっちになってホームレス状態になった人や路上生活を抜け出した人にとっても、人とのつながりをつくり、生きる喜びや意欲を回復する機会になるからです。10期ではクラブ活動をはじめさまざまなプログラムへのボランティア参加が増え、活動の場も広がりました。特にホームレスサッカーは定例的な練習と交流を続け、そこから発展した「ダイバーシティカップ」の取り組みも新たな広がりをみせています（15p. 参照）。また、ダンスチーム「新人Hソケリッサ！」は、第一回公演から10周年を迎え、彼らの原点である路上に戻って踊る「東京近郊路上ダンスツアー」を開始しました。

スポーツ活動—ボランティア、当事者の参加の輪が広がる

大阪の野球部「レッドキャプス」は、恒例となった定時制や通信制高校の野球部との交流試合を2月に開催。若者相手に善戦しましたが、惜しくも決勝で敗れました。大阪ではその他にもヨガや卓球など単発的な活動が行われました。

東京では事務所近くの公園でキャッチボールを楽しむ「キャッチボールクラブ」が活動を継続。ホームレスサッカーチーム「野武士ジャパン」は東京・大阪で月2回、ボランティアの方や当事者を交えて練習を実施しました。



レッドキャプス集合写真



野武士ジャパン練習風景

文化活動—自主的な活動のひろがり

大阪では、2007年から続くまち歩きクラブ「歩こう会」が月例の活動を重ね、6月に93回目の開催を迎えました。5月には、大学のボランティアサークルと合同で、高槻の摂津峡を歩き、古民家を改築した貸しスペースで交流するなど、世代や立場を超えて参加の輪が広がりました。雨天時には、事務所での将棋やオセロなどのボードゲームなどが行われ、随时ハンデや独自ルールを設けるなどの工夫をしながら対戦を楽しんでいます。

東京では活動開始から2年目を迎えた英語クラブが、ボランティア講師の協力を得て毎月2回、計21回の「路上で使えるイングリッシュ」の勉強会を行いました。外国の方向けの道案内ワードの学習や、洋楽のリスニングクイズなどを楽しみました。



歩こう会



英語クラブ

路上生活者と経験者が中心となり振付家でダンサーのアオキ裕キさんがリードするコンテンポラリーダンス・チーム「新人Hソケリッサ!」は、2007年の第一回公演から10周年を迎えました。これを記念して2017年6月から2018年9月末まで、彼らの原点である路上に戻って踊る「東京近郊路上ダンスツアー」を開始しました。ツアー資金獲得のためのクラウドファンディングでは、140人からご支援をいただき、6月に行われた第1弾、東京・神田テラススクエアでのシンガーソングライター・寺尾紗穂さんとのコラボ公演には約200人の来場がありました。活動歴7年を誇るベテランメンバーから今回のツアーをきっかけに活動を始めた人まで、10回以上の公演を最大9人のチームで踊ります。詳細はソケリッサHP (<http://sokerissa.net/>) をご覧ください。



ソケリッサ!



東京近郊路上ダンスツアー「日々荒野」チラシ

【くらしの基盤をつくる—住宅政策提案事業とステップハウスの実験的事業】

基金では住宅問題の改善が「貧困問題解決の要」と考え、6 期に設けた「住宅政策提案・検討委員会」(平山洋介委員長)とともに住宅政策の提案・調査の活動をしてきました。これまで『住宅政策提案書』、『若者の住宅問題—住宅政策提案書〔調査編〕—』、『大転換！住宅問題「市民が考える！若者の住宅問題&空き家活用」シンポジウム報告書』と3冊の冊子を発行し、その都度市民参加によるシンポジウムを開催してきました。



『住宅政策提案書』



『若者の住宅問題』



『若者の住宅問題&空き家活用シンポジウム報告書』

※各報告書の無料PDF版が基金HPからダウンロードいただけます。

2014年に実施した「若年・未婚・低所得層の居住実態調査」では、1,757件の回答者のうち、8割近くが低収入ゆえに家族と同居し、他2割は過重な家賃負担に苦しみ、全体の6.6%の人が広義のホームレス状態を経験している、という状況が浮かび上がりました。路上に出てしまった人をはじめ、こうした潜在的に住まいを失うリスクを抱えた人々が「安定した住まい」を確保、維持するのをどうサポートできるのか。基金では全国に850万戸と言われる「空き家」の問題とマッチングして解決する方法を提案する一方、具体的な方策を模索するため、「ステップハウス」の実験的運営を進めています。

「空き家」と「住宅困窮者」のマッチング事例—ステップハウスの実験的事業

ホームレス状態の人が安価で利用でき、利用料の一部を積立金にして、利用期間中に次のステップへの資金も蓄えられる「ステップハウス」。今期は東西で延べ10人の利用がありました。

東京では一般社団法人「つくろい東京ファンド」(代表理事・稲葉剛氏)と業務提携し、新宿区の物件「ふらっとハウス」内の2室を、ステップハウスとシェルターとして運用しました。ステップハウス2人、シェルター延べ18人が利用し、ここをベースに身分証の取得や、健康保険加入などのサポートも行いました。シェルターの利用は一時的な「体調不良」によるものが最多でした。その他東京マラソンによる路上整理や、大雨被害など、物理的に路上で寝ることができない状況による理由で利用されるケースがありました。



「ふらっとハウス」室内の様子



お弁当の自炊にもチャレンジ、利用者Yさん

大阪では9期に開設したステップハウス「悟楽堂」に加え、2017年3月より新たに兵庫県内に1室をオープン。いずれも「空き物件を活用してほしい」という市民の方からのお申し出によるもので、緊急用シェルターも合わせて計6室を運用しています。今期はステップハウス7人、シェルター延べ56人、計63人が利用。月例の利用者会議では共用部の掃除の分担やスケジュール、居住ルールを決め、自炊や節約の方法を利用者間で共有するなど、自治的な利用による暮らしが営まれています。東京と大阪を合わせ6人が積立金を元に民間アパートやシェアハウス、簡易宿泊所などに転居できました。



鍋を囲んでの利用者会議



「悟楽堂」室内の様子



共用部分の清掃



ステップハウス室内の様子

コラム

【大阪ステップハウス利用者Yさんの声】

まず、よく眠れるようになったね。駅で寝てたときは清掃業者や酔っ払いの声に起こされていたし、荷物を盗られたりしないかの心配もあって、今思うとずっと緊張してた。最近は部屋でストレッチをやったり、鼻歌を歌ったり、リラックスして過ごしています。

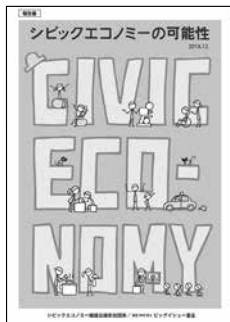
身分証や通帳を作ったり、音信不通だった家族・親戚と手紙をやりとりするようになったりとか、いろいろ変わった事はあるけど、最近ふと電車で自分の隣に女性とか子どもがためらいなく座ようになったことに気づいて、「普通」になってきてるのかなあ、と感じた。きっと単に、入浴と洗濯ができるようになったからなんだけどね（笑）

今後の目標？ 積立金にプラスしてお金をためて、安い家賃のところに引っ越す。「路上に戻らない」のが、目標です。

【新しい仕事をつくる—若者をホームレスにしないために】

「出口≒仕事づくり」の可能性—シビックエコノミー調査事業

『若者応援プログラム集』（14年3月発行）の発行などから見てきたのは、若者ホームレスを中心とする社会的不利・困難を抱える若者のための「出口≒仕事づくり」の極端な不足でした。そこで8期より、市民が社会問題の解決に挑戦する活動や場を、同時に新たな仕事・雇用の場にもする「シビックエコノミー」の試みの可能性について調査してきました。16年8月に開催したシビックエコノミー推進会議（6団体が参加）の内容を12月に、報告書『シビックエコノミーの可能性』（A4版/32p.）にまとめ、3,000部を発行し、1,672部を配布しました。



『シビックエコノミーの可能性』



シビックエコノミー推進会議の様子

【依存症からの脱却—ギャンブル依存症問題の調査・提案事業】

ギャンブルによる借金などから逃れるためホームレス状態となり、そこからの脱出を阻む足かせともなる、ギャンブル依存症の問題。8期から米本昌平副理事長を中心にこの問題に取り組み、報告書『疑似カジノ化している日本—ギャンブル依存症はどうかたちの社会問題か？』（A4版/32p.）を発行。続く9期には専門家や当事者、支援団体とともに「ギャンブル依存症問題研究会」を組織して、報告書『ギャンブル依存症からの生還—回復者12人の記録』（A4版/88p.）をまとめ、発行しました。これらの報告書が、16年12月、カジノ法案審議中の参議院内閣委員会にて資料として配布され、政府のギャンブル依存症対策における不作為の責任を明らかにする議論に活用されました。

17年6月、さらなる政策提案を行うための研究会が作られ、現在議論を進めています。



『疑似カジノ化している日本』



『ギャンブル依存症からの生還』

※各種報告書は、無料（送料のみご負担ください）でお送りできます。①冊子名②お名前③ご住所④冊数を明記いただき、tokyo@bigissue.or.jp までお問い合わせ下さい。

【ダイバーシティカップ（スポーツによる社会的包摂の空間づくり）

——社会性スポーツへの13年目】

ホームレスサッカーチームの活動は2004年に始まり、間もなく13年になろうとしています。毎月の練習を重ねながらイエーティボリ、ミラノ、パリなどの大会にも参加し、ホームレス状態の人に限らずにさまざまな社会的困難を抱えた当事者がボールを通じて交流する「ダイバーシティカップ」へと発展させてきました。そして今期は活動を大きく展開させるため「ダイバーシティサッカーアソシエーション準備委員会」を設けるに至り、勝ち負け第一の「競技性スポーツ」に対し、ホームレスをはじめとした社会から排除されがちな人々が参加でき、人と人をつなぐ「社会性スポーツ」をさらに広げる第一歩の年でした。

2016年10月にはシンポジウム「A ball can change the life—1つのボールが人生を変える」を開催しました（協力：損害保険ジャパン日本興亜株式会社）。ホームレスワールドカップのレイチェル・メイさんやアーティストの日比野克彦さんなど多彩なゲストを迎え、スポーツが持つ社会的可能性について80人の参加者とともに濃密な議論が交わされました。後援の日本サッカー協会会長の田嶋幸三さんも出席され「ホームレスサッカー、ダイバーシティサッカーをサッカーファミリーとして応援していきたい」という言葉が寄せられました。

2016年11月には、同年7月に開催した第2回ダイバーシティカップの様態や参加者の声、運営のノウハウも盛り込んだ報告書を発行しました。そして2017年3月には、第12回全国若者・ひきこもり協同実践交流会と協力、その延長企画として、第3回ダイバーシティカップを開催。ひきこもりや精神疾患、ギャンブル依存症などの多様な背景を持つ若者、その支援者など12チーム200人以上がスポーツを通じて交流しました。

2017年4月から始まった「社会的困難を抱える若者のスポーツ応援事業」（平成29年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業）では、ホームレスの人や、社会的困難を抱える若者にスポーツの機会を開き、多様な人が出会い、ともに楽しみ元気になれる場をつくれるよう委員会とともに取り組んでいます。

※第1回、第2回のダイバーシティカップ
報告書は基金HPからPDF版がダウンロードできます。



第3回大会試合の様子

photos: 横関一浩



シンポジウム集合写真



第3回大会集合写真

【参加のチャンスをつくる―ボランティア参加プログラム】

今期のボランティア登録者数は、東京 571 人、大阪 416 人の他、札幌、仙台、立川、横浜、川崎、三鷹、名古屋、京都、岡山、福岡、熊本、鹿児島などの各地サポーター約 100 人、あわせて合計 1,087 人でした。また今期は 3 人の学生インターンを受け入れ、ホームレス問題に主体的に関わる場と機会を提供しました。

定例の参加プログラムである、月 2 回の会報誌発送作業やフットサル練習にも多くのボランティアの方の参加をいただきました。その他にも熱中症対策ドリンク作成、おにぎり作り、各種イベントの準備や撮影記録、夜回りなどの巡回活動、月例サロンでのランチ調理補助などの他、語学、医療、福祉、コーチングなどの専門を生かした多様なみなさんの参加がありました。



ボランティア説明会の様子

ボランティア説明会―東京・大阪で毎月 1 回開催

ホームレス問題やビッグイシュー基金の活動、ボランティアについてより多くの人に知っていただくために、東京・大阪で月 1 回定例の説明会を開催しています。今期は大阪 26 人、東京 56 人の方が説明会にご参加くださいました。説明会の後、希望者にはボランティアメーリングリストに入っており、定期的にボランティア情報をお伝えしています。

◇東京事務所：第 2 土曜日 13 時～15 時

◇大阪事務所：第 2 または 4 土曜日 13 時～15 時

※ボランティア説明会への参加を希望される方は、メール（大阪：info@bigissue.or.jp、東京：tokyo@bigissue.or.jp）までご連絡をお願いします。

【市民応援会員、メニュー寄付、任意寄付、物品寄付―寄付参加プログラム】

会員・寄付者へのアンケート調査を実施

基金のこれまでとこれからの活動の進め方の基本を考えるため、16 年 10 月、10 年近く支えていただいた市民応援会員と寄付参加者を対象に、基金の活動についての評価・意向などを聞くアンケート調査を行い、402 人の方から回答をいただきました。

その結果、活動の基本的な考え方である「自助型の応援」への支持は 9 割。活動の進め方として、外部団体や委員会と協力し、活動を社会に広げるための推進プログラムや組織を積極的に外へ出していくことについては 86% の支持がありました。調査・提案活動は、今後も質の高い作業を続け、現場の実践につなげるのがよい、という意見が 9 割超。新しい仕事づくりをめざす“シビックエコノミー”運動は前面に出て推進すべきだという意見が 84%、ダイバーシティカップとそれを担う推進団体を外部で立ち上げるという提案には 66% の賛成がありました。アンケートへのご協力、ありがとうございました。

会員・寄付者の内訳

(市民応援会員)

にっこり(289人)／ひとり立ち(87人)計376人／企業・団体 サポーター計2件

→個人、団体を合わせた市民応援会費合計994万円

(メニュー寄付への参加者)

出会い(235人)／つながりウォーク(241人)／実践応援ラン(86人)／社会包摂マラソン(68人)／市民信頼社会(36人)計666人→メニュー寄付金額計1,231万円

(任意寄付の参加者)

任意寄付は1,192人、遺贈寄付は4人、その他寄付(チャリボン等)は518人と、あわせて寄付参加者は延べ1,714人→任意、遺贈、その他の寄付金額計1,995万円

市民応援会員と寄付参加者は合計延べ2,758人、金額では合計4,219万円となりました。前9期と比較して194万円増えました。

使途を厳格に決められた行政などの補助金、助成金などと違って、こうした市民応援会費、メニュー寄付、任意寄付は社会の変化に柔軟に対応した多彩な活動ができ、また、スタッフのアイデアや自発性を生かすことが可能になっています。寄付参加者の皆さんに心からの感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございます。

寄付参加者へは、毎月欠かさずニュースレターで事前、事後の活動報告を行い、ともに活動をしていく参加者と心から思っていただけよう努力しています。また、これらは公共を担う寄付として税制優遇を受けていただけ、2017年1月下旬には2016年度分の寄付金控除のための領収書を824人にお送りしました。2012年4月のNPO法の改正により新たな所轄庁が大阪府となり、府へ認定NPO法人の申請をし、2017年3月27日に認定されました。ひき続き基金への寄付は税制優遇の対象となり、寄付金控除を受けていただけます。

(物品寄付)

Facebookや基金HP、メールリストなどを通じて寄付募集を行いました。継続的にサポートいただいている企業や連携団体、たくさんの市民の方から食料品や衣料品、生活用品やタオル等の物品の寄付を頂き、今期261件の寄付が(東京170件、大阪91件)ありました。それらは随時、夜回りや事務所に訪れた当事者の方に配布しました。ありがとうございました。

古本やTシャツで「ホームレスの自立を支援」—チャリボン・JAMMIN

書籍やDVDをバリューブックスに送ることでNPOを支援できるのが「チャリボン」です。2013年4月から2017年8月末までに1,942人の方から古本をお送りいただき、買い取り相当額の3,752,839円のご寄付をいただきました。仕組みや詳細についてはチャリボンのサイト(<http://www.charibon.jp/>)をご覧ください。また、チャリティ専門のアパレルブランド「JAMMIN」が、基金をモチーフにデザインしたTシャツを2017年7月17日から1週間販売。273アイテムの購入をいただきました。このご寄付は来期に入金予定です。

広報—webを通じたアクセスチャンネルを増加

広報活動としては、寄付参加者への基金便りや基金通信「希望前線」を各24回、その他の寄付参加者へは12回のニュースを発行しました。この他、ホームページ、ビッグイシューオンライン、ソーシャルメディアによる情報発信とともに、検索サイトで「ホームレス」、「ギャンブル依存症」などの単語から基金HPに誘導する広告文を表示する、グーグル社提供のシステムを継続的に運用しました。

マスメディアにも、ダイバーシティカップの取り組みや、ギャンブル依存症問題の報告書などが取り上げられました。

メディア掲載

(新聞)

2016年10月15日	朝日新聞 「家族観」について理事へのインタビュー
2016年11月3日	しんぶん赤旗 ホームレス・ワールドカップの紹介
2016年12月11日	東京新聞 「ギャンブル依存症からの生還」について紹介
2017年1月3日	大阪日日新聞 ビッグイシュー基金の取り組みの紹介
2017年3月26日	しんぶん赤旗 ダイバーシティフットサルカップの紹介
2017年4月28日	北海道新聞 札幌でのシビックエコノミーシンポジウムの紹介
2017年4月30日	毎日新聞 ギャンブル依存症問題の取り組み紹介
2017年6月25日	毎日新聞 報告書『若者の住宅問題』調査の引用

(雑誌)

2016年12月1日	月刊ガバナンス シンポジウム「一つのボールが人生を変える」紹介
2017年1月20日	消費者リポート ギャンブル依存症問題について理事へのインタビュー
2017年2月1日	月刊ガバナンス 野武士ジャパンについて理事へのインタビュー
2017年4月1日	月刊ガバナンス ダイバーシティフットサルカップの紹介
2017年4月1日	日本の科学者 ダイバーシティカップの取り組み紹介
2017年5月30日	週刊エコノミスト 報告書『若者の住宅問題』の紹介

【10周年記念事業】

オフィスの拡張新設をかねた市民的交流サロンの創設

手狭になった東京・大阪のオフィスを拡張新設する際、当事者を中心とする市民的な交流の場や居場所をつくり、カフェなどのある交流サロンを設けたいと考えました。これに賛同して、家賃の一部のご負担などを申し出ていただいたにも関わらず、格安の物件が見つからず実現しませんでした。引き続き、東京・大阪の2拠点で新しい場所を探します。また、「感謝と交流の夕べ」や一日限りの「ビッグイシューカフェ」など、サロンの場で開催するプログラムについても、試行しながら検討を重ねます。

ダイバーシティカップを推進する団体の立ち上げ

勝ち負け第一の「競技性スポーツ」に対し、7月、スポーツをはじめ社会から排除されがちな多様な人々や、人と人をつなぐ交流型社会空間をつくる「社会性スポーツ」(15p. 参照)を、全国的に展開するための推進母体「ダイバーシティサッカーアソシエーション準備委員会」を立ち上げました。

記念シンポジウムや活動報告会の開催

『路上脱出・生活SOSガイド』(大阪編)の発行記念、ギャンブル依存症問題への政策提案を内容とする第3弾レポートの発表、を機にそれらを社会的に共有するために2017年中、それぞれ大阪・東京でシンポジウムなどを開きます。また、基金の10年間のあゆみ、活動の現状や課題を当事者、会員・寄付参加者、ボランティア、市民と共有する報告会を開催します。

ありがとうございました ―― 市民・組織・団体・企業のご協力とご参加

【助成金】

公益財団法人 パブリックリソース財団／独立行政法人福祉医療機構

【企業・団体寄付】

株式会社北洋舎クリーニング／コスモス法律事務所／宗教法人カトリック・ノートルダム教育修道女会／UBS グループ（UBS 証券株式会社、UBS 銀行東京支店、UBS アセット・マネジメント株式会社）／キーン・ジャパン合同会社／Repair Caf'e Japan ～なでしこリペア／特定非営利活動法人東京ソテリア／医療法人森矢野クリニック／NMC ギャラリー & スタジオ／ゾーホージャパン株式会社／PAG／Shangri-La Hotels Japan 株式会社／ホワイト&ケースコミュニティカップ／国際石油開発帝石 株式会社 サッカー部／有限会社フットフィール

【寄付サイトからの寄付】

公益財団法人 パブリックリソース財団（ギブワン、<http://www.giveone.net/>）

株式会社バリュブックス（チャリボン、<http://www.charibon.jp/>）

【物資の寄付】

UBS グループ（UBS 証券株式会社、UBS 銀行東京支店、UBS アセット・マネジメント株式会社）（医薬品、食品、衣料など）／認定 NPO 法人フードバンク関西（食品）／トヨタ紡織滋賀株式会社（カイロなど）／キーン・ジャパン合同会社（靴）／有限会社アーヴィング・DRAGON FRUIT（衣料）／タワーレコード株式会社（衣料、日用品）／東京演劇アンサンブル（衣料）／S I E N 2（テレホンカード）／ピープルツリー（フェアトレードカンパニー株式会社）（食品、衣料）／大塚製薬株式会社（飲料用粉末）／地域猫ボランティア（物資）／ポートピアグリーンチーム（衣料、日用品）

【各地のサポーター組織】

ビッグイシューさっぽろ／仙台ビッグイシューソサイエティ／NPO 法人萌友／NPO 法人仙台夜まわりグループ／NPO 法人川崎水曜パトロールの会／木曜パトロール市民の会／NPO 法人さんきゅうハウス／びよんどネット／金沢カトリック教会平和の会／真宗大谷派 聞善寺／ビッグイシュー名古屋ネット／NPO 法人釜ヶ崎支援機構／ビッグイシュー日本京都事務所（社団法人関西厚生協会）／NPO 法人岡山・ホームレス支援きずな／ビッグイシュー福岡サポーターズ／ビッグイシューくまもとチーム／ビッグイシューかごしまサポーターズ

【法律事務所（遺贈寄付手続き）】

あすなろ法律事務所／奈良総合法律事務所

【その他】

ゲーグル株式会社／株式会社セールスフォース・ドットコム

決算報告

第10期の市民応援会費、寄付、助成金などの経常収益は4,468万円となりました。第9期と比べ、会費は減少しましたが、遺贈寄付や助成金収入が増え、209万円の増収となりました。この結果、第10期の経常収支差額は△207万円となりました。しかし、9期からの繰越金684万円を合わせ、第10期からの次期への繰越金は477万円となりました。今期受け入れた助成金（643万円）のうち、来期の2018年3月まで事業を行う522万円については、第11期に繰り越したため（注記の5.を参照）、実際には次期へ999万円を繰り越すことになりました。

【活動計算書 2016年9月1日～2017年8月31日まで】

科 目	金額（単位：円）	
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費	170,000	
賛助会員受取会費	9,935,000	10,105,000
2. 受取寄付金		
受取寄付金	32,256,656	32,256,656
3. 受取助成金等		
受取助成金	1,417,244	1,417,244
4. 事業収益		
生活自立応援事業収益	674,451	
政策提案事業収益	81,100	755,551
5. その他収益		
受取利息	28	
雑収益	147,346	147,374
経常収益 計		44,681,825
II 経常費用		
1. 事業費		
人件費		
給料手当	14,636,345	
臨時雇賃金	4,869,036	
法定福利費	2,603,808	
通勤費	1,455,032	23,564,221
その他経費		
業務委託費	1,141,592	
諸謝金	565,274	
印刷製本費	591,410	
会議費	950,225	
旅費交通費	3,058,232	
通信運搬費	1,656,965	
消耗品費	878,613	
家賃（光熱費含）	2,996,292	
賃借料	1,180,704	
保険料	269,920	
諸会費	43,000	
租税公課	5,550	
研修費	94,007	
広報費	3,110,400	
会報費	2,571,520	
寄付金	200,000	
支払手数料	485,255	
雑費	261,432	20,060,391
事業費 計		43,624,612
2. 管理費		
人件費		
給料手当	555,180	
臨時雇賃金	55,144	
法定福利費	83,861	
通勤費	59,576	
福利厚生費	79,902	833,663
その他経費		
印刷製本費	241,432	
会議費	77,635	
旅費交通費	485,753	
通信運搬費	418,244	
消耗品費	93,291	
家賃（光熱費含）	124,845	
賃借料	176,472	
諸会費	10,800	
租税公課	3,250	
研修費	7,000	
支払手数料	514,966	
雑費	1,080	2,154,768
管理費 計		2,988,431
経常費用 計		46,613,043
税引前当期正味財産増減額		△1,931,218
法人税、住民税及び事業税		140,000
当期正味財産増減額		△2,071,218
前期正味財産額		6,844,661
次期正味財産額		4,773,443

【貸借対照表 2017年8月31日現在】

科 目	金額（単位：円）		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	11,659,155		
未収金	200,000	11,859,155	
2. 固定資産			
		0	
資産合計			11,859,155
II 負債の部			
1. 流動負債			
前受金	5,216,781		
仮受金	760,559		
預り金	70,272		
当事者預り金	1,038,100	7,085,712	
2. 固定負債		0	
負債合計			7,085,712
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		6,844,661	
当期正味財産増減額		△2,071,218	
正味財産合計			4,773,443
負債及び正味財産合計			11,859,155

【財産目録 2017年8月31日現在】

科目・摘要	金額（単位：円）		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
手元現金	791,587		
普通預金（三菱東京UFJ銀行堂島支店）	3,769,087		
普通預金（三菱東京UFJ銀行助成用）	5,214,834		
普通預金（三菱東京UFJ銀行新宿支店）	600,000		
郵便振替	438,015		
普通預金（ゆうちょ銀行）	717,086		
普通預金（みずほ銀行）	128,546		
未収金			
賛助会員受取会費未収金（カード利用）	200,000	11,859,155	
2. 固定資産			
	0	0	
資産合計			11,859,155
II 負債の部			
1. 流動負債			
前受金（㈱福祉医療機構）	5,216,781		
仮受金（㈱ビッグイシュー日本）	760,559		
預り金（源泉所得税）	70,272		
当事者預り金（生活自立積立金）	1,038,100	7,085,712	
2. 固定負債		0	
負債合計			7,085,712
正味財産			4,773,443

【計算書類の注記】

1、重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準によっています。

(1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。なお、当法人は消費税免税事業者です。

(2) 事業費管理費共通経費の按分

共通経費は業務の従事割合によって按分しています。

2、事業費の内訳

事業費内訳	生活自立応援事業			ホームレス問題等社会問題解決のための政策提案事業				活動への当事者や市民の参加応援事業	事業費計
	生活自立応援	就業応援	スポーツ・文化活動応援	若者応援ネットワーク	住宅政策提案	キャンブル依存症問題	ダイバーシティ		
人件費									
給料手当	9,783,330	1,420,087	489,954	843,055	291,780	547,200	409,773	851,166	14,636,345
臨時雇賃金	2,197,976	0	0	30,900	0	0	2,550,087	90,073	4,869,036
法定福利費	1,657,099	220,012	75,112	131,567	44,083	82,834	264,933	128,168	2,603,808
通勤費	883,839	70,840	28,786	59,050	22,577	38,388	265,901	85,651	1,455,032
人件費計	14,522,244	1,710,939	593,852	1,064,572	358,440	668,422	3,490,694	1,155,058	23,564,221
その他経費									
業務委託費	908,240	0	0	80,000	0	0	135,000	18,352	1,141,592
諸謝金	111,274	0	10,000	150,000	0	0	294,000	0	565,274
印刷製本費	92,810	0	8,200	218,160	0	0	267,240	5,000	591,410
会議費	573,891	21,081	84,532	0	0	14,128	253,823	2,770	950,225
旅費交通費	1,217,855	228,281	15,266	99,013	30,378	522,736	765,256	179,447	3,058,232
通信運搬費	18,274	0	0	9,040	0	1,063	15,482	1,613,106	1,656,965
消耗品費	391,858	40,292	4,636	0	0	0	225,664	216,163	878,613
家賃（光熱費含）	1,779,048	218,480	93,634	156,057	62,423	93,634	405,748	187,268	2,996,292
賃借料	761,214	17,720	65,450	2,200	0	0	334,120	0	1,180,704
保険料	21,420	0	0	0	0	0	248,500	0	269,920
諸会費	43,000	0	0	0	0	0	0	0	43,000
租税公課	1,550	0	0	0	0	0	450	3,550	5,550
研修費	12,600	1,143	0	33,100	2,000	12,174	27,990	5,000	94,007
広報費	0	0	0	0	0	0	0	3,110,400	3,110,400
会報費	0	0	0	0	0	0	0	2,571,520	2,571,520
寄付金	190,000	0	0	0	10,000	0	0	0	200,000
支払手数料	24,346	0	216	1,080	216	864	52,974	405,559	485,255
雑費	196,987	13,624	21,000	1,521	0	7,300	21,000	0	261,432
その他経費計	6,344,367	540,621	302,934	750,171	105,017	651,899	3,047,247	8,318,135	20,060,391
事業費計	20,866,611	2,251,560	896,786	1,814,743	463,457	1,320,321	6,537,941	9,473,193	43,624,612

3、当事者預り金の内訳

内容	期首残高	当期増減	期末残高
生活自立積立金	703,500	334,600	1,038,100
合計	703,500	334,600	1,038,100

4、役員及びその近親者との取引

科目	計算書類に計上された金額	内役員及び近親者との取引
家賃（光熱費含）	3,121,137	3,121,137
広報費	3,110,400	3,110,400
会報費	2,571,520	2,571,520

5、使途が制約された助成金の内訳

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
平成29年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業 助成金	0	1,216,219	1,216,219	0	社会的困難を抱える若者のスポーツ応援事業用として交付を受けた助成金 6,433,000 円のうち、未使用の際返還義務の生じる 5,216,781 円は前受助成金として計上しています。

監 査 報 告	
1 監査の方法の概要	業務執行については、代表理事等から、現在会員数、活動内容等を聴取し、財産の状況については、損益計算書、貸借対照表の開示及び説明を受けました。他方、適宜、総勘定元帳、入金伝票、領収書、通帳の写し、郵便振替票等につき検討を加えました。
2 監査の結果	特定非営利活動法人ビッグイシュー基金の業務報告及び決算報告について、2016（平成28）年9月1日から2017（平成29）年8月31日までの監査を行った結果、客観的資料にもとづき明確かつ正確であって、適法であることを認めます。 なお、業務または財産に関して、指摘すべき、不正の行為または法令、定款違反の重大事実はありません。
2017（平成29）年10月17日	
特定非営利活動法人ビッグイシュー基金監事	
木 原 万 樹 子	

社会を変えるのはあなたの寄付です ― 会員・寄付制度について

社会参加のメニュー寄付

2012年7月、認定NPO法人となったため、基金への寄付は税制優遇されます。ご寄付をいただくと、納められた所得税から寄付額の4割弱が返金されます。（返金の上限額は納付所得税の25%まで）公のことはすべて国が税で賄うという建前を変え、公を認定NPO法人にも担ってもらい、その分、税の一部を返金する、という仕組みです。公共の仕事を「税＝国家」でするのか？「寄付＝NPO」でするのか？を選んで決めるのは、納税し寄付するあなたです。

市民の寄付で社会を変える時代がやってきました。寄付による社会変革、あなたも参加しませんか。

税制優遇の対象です。「(寄付金合計額 - 2千円) × 40%」が税額から控除（確定申告が必要）できます。＊雑誌送付などの特典はありません。



出会い寄付
5,000 円 / 1 口（返金額は 1,200 円）



つながりウォーク寄付
10,000 円 / 1 口（返金額は 3,200 円）



実践応援ラン寄付
20,000 円 / 1 口（返金額は 7,200 円）



社会包摂マラソン寄付
50,000 円 / 1 口（返金額は 19,200 円）



市民信頼社会寄付
100,000 円 / 1 口（返金額は 39,200 円）

- 任意額寄付
事務手続き上 1,000 円からの受付となります。
- マンスリー寄付
月額 1,000 円 × 1 口～。
（HP から受け付けています）
- 法人寄付
損金算入限度額の枠が拡大されます。
- 遺贈・遺産寄付
寄付された相続財産には相続税がかかりません。
＊遺贈、遺産寄付をお考えの方には、当基金の顧問弁護士、会計士が法律や税務などの相談をさせていただきます。お気軽に電話・Eメールでご連絡ください。

＊ご寄付をいただいた皆さまには、毎月発行のニュースレター、年次報告書（年 1 回）をお送りします。

市民応援会員 特典があります。（税制優遇の対象外です）



にっこり応援会員 年会費：15,000 円（誌代相当分を含む）

【特典】 年次報告書（年 1 回）の送付
「ビッグイシュー基金通信」掲載の『ビッグイシュー日本版』1 冊 1 年分の送付 & 最新号にお名前を掲載



ひとり立ち応援会員 年会費：50,000 円（誌代相当分を含む）

【特典】 年次報告書（年 1 回）の送付
「ビッグイシュー基金通信」掲載の『ビッグイシュー日本版』1 冊 1 年分の送付 & 雑誌に 1 年間お名前を掲載、ビッグイシュー基金パーティにペアでご招待（年 1 回）

企業・団体「社会再生」サポーター 特典があります。（税制優遇の対象外です）

●キャリア再形成・サポーター会員 年会費：250,000 円 ●社会復帰・サポーター会員 年会費：500,000 円 ●社会再生・サポーター会員 年会費：1,000,000 円

＊『ビッグイシュー日本版』1 冊を 1 年分送付、誌面にお名前掲載などの特典あり ＊年会費に誌代相当分を含む

＜振込み＞ 郵便振替：口座番号 00960-6-141876 口座名義 NPO 法人ビッグイシュー基金
お振込みの際は寄付・会員の別、連絡先（お名前、郵便番号、ご住所、電話番号）を明記ください。

＜クレジットカード＞ ビッグイシュー基金のホームページ（<http://www.bigissue.or.jp>）からご利用いただけます。

銀行での振込みをご希望の場合は、大阪事務所（06-6345-1517）までお問い合わせ下さい。

※個人の方のご寄付の領収書は 1 月～ 12 月入金分をまとめて翌年 1 月下旬に発行・送付させていただきます。

（これを、確定申告時に提出していただくと納付税額から一定額が返金されます）

誰にでも居場所と出番のある“包摂”社会をつくる

——ビッグイシュー基金とは

ビッグイシュー基金は、有限会社ビッグイシュー日本（※）を母体に 07 年 9 月に設立した、ホームレスの人々の自立を応援する非営利団体です。12 年 7 月 1 日に認定 NPO 法人となり、当基金への寄付は税制優遇されることになりました。ビッグイシュー基金は①ホームレスの人々の自立応援、②ホームレス問題解決のネットワークづくりと政策提案、③市民のボランティアや社会参加、という 3 つの柱の活動を通じて、貧困問題と社会的排除という氷山の頂点にあるホームレス問題の解決に取り組めます。それらを通して市民、ホームレスの人とともに、路上生活者だけでなく生活困窮者にも応援を広げながら、誰にでも居場所と出番のある包摂社会の形成をめざします。

「機会」豊かな市民信頼社会を——ビッグイシュー基金が目指すもの

ビッグイシュー基金は、自立の応援、モノやおカネではない「チャンス」の提供、ホームレスの人をパートナーにする、という考え方をもっています。多くの NPO、企業や政府とも協力しホームレスの人々の「自立」支援を、「自助型の応援」を基本に進めています。

また、市民応援会員、市民寄付者などを中心に、多くのボランティアや市民とともに、市民同士の協力と共同を促進し、市民が当事者になれる活動を行い、再チャレンジしやすい「機会の豊かな」市民信頼社会の形成に貢献したい、と考えています。

そして、上記の 3 つの基本応援プログラムに加え、ホームレスの人々が望めば、いつでもサッカー、文学賞などスポーツ・文化のクラブ活動への参加もできます。そして、当事者として、生きる喜びや誇り、元気を回復し、自ら問題解決の担い手になってもらいたいと考えています。

団体概要

- 名 称 認定 NPO 法人 ビッグイシュー基金
- 設 立 2007 年 9 月設立、08 年 4 月 NPO 法人の認証、12 年 7 月国税庁、17 年 3 月大阪府認定 NPO 法人格取得
- 所 在 地 [事務局] 〒530-0003 大阪市北区堂島 2 丁目 3-2 堂北ビル 4 階
Tel 06-6345-1517 Fax 06-6457-1358
HP: <http://www.bigissue.or.jp> E-mail: info@bigissue.or.jp
[東京事務所] 〒162-0065 東京都新宿区住吉町 8-5 シンカイビル 201 号室
Tel 03-6380-5088 Fax 03-6802-6074
- 役 員 理事長 佐野 章二（有限会社ビッグイシュー日本共同代表）
副理事長 米本 昌平（東京大学客員教授）
理 事 稲葉 剛（立教大学大学院特任准教授／一般社団法人つくろい東京ファンド代表理事）
井上 英之（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特別招聘准教授／
一般社団法人イノラボ・インターナショナル共同代表）
枝元 なほみ（料理研究家）
中川 康生（ビッグイシュー基金法務担当責任者）
蛭間 芳樹（野武士ジャパンコーチ / 世界経済フォーラム ヤング・グローバル・リーダー 2015）
水越 洋子（『ビッグイシュー日本版』編集長）
監 事 木原 万樹子（木原法律事務所弁護士）
相談役 雨宮 処凛（作家）
- スタッフ 中原加晴 永井悠大 長谷川知広 吉武華子 池田真理子 小林由希 橋新功一
高野太一 粟原奈津子 川上翔 林直美

（※）有限会社ビッグイシュー日本とは？

ビッグイシュー日本は、「ホームレスの人々の救済ではなく仕事を提供し、自立を応援する」ことを目的に活動している有限会社です。ホームレスの人々の自助と自立を促すために雑誌を制作し、路上で彼らに独占的に販売してもらい、その売り上げの 50%以上を収入にしようという仕組みをつくっています。03 年 9 月から 17 年 8 月までの 14 年間で 1,770 人が販売者に登録し、194 人が仕事を得て自立しました。また、累計 780 万冊を販売、11 億 6,394 万円の収入をホームレスの人たちに提供してきました。



2017 年 11 月 15 日発行

認定NPO法人ビッグイシュー基金

(大阪事務所) 〒530-0003 大阪市北区堂島2丁目3-2 堂北ビル4F

TEL : 06-6345-1517 FAX : 06-6457-1358

(東京事務所) 〒162-0065 東京都新宿区住吉町8-5 シンカイビル201号室

TEL : 03-6380-5088 FAX : 03-6802-6074

E-mail : info@bigissue.or.jp URL : <http://www.bigissue.or.jp>

デザイン：株式会社くとうてん